

令和5年度 江戸川区立平井東小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

| | | | |
|-------------------|---|----------------------------|--|
| 学校教育目標 | ◎考える子ども ○助け合う子ども ○じょうぶな子ども ○進んで取り組む子ども | 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 | ○子供たちが「生き生きとした表情で生活する」学校 ～笑顔で登校、笑顔で下校～ ○「人にやさしく、自分につよい」ひがしっ子 ○「明るく、元気な」ひがしっ子 ○児童一人一人の心に寄り添う教師 ○自身も成長し続ける教師 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | <成果>○人権意識の定着 ○基礎学力の定着と学習意欲・思考力の向上 ○校内研究によるICT機器活用授業の授業力向上 ○学校図書館を活用した授業の改善 ○休み時間の運動遊びの定着 ○ホームページによる学校情報の積極的な発信 ○荒川学習の計画的な実施 <課題>○自ら学ぶ力・思考力のさらなる育成 ○ICT機器(児童用タブレットを含む)活用のさらなる授業方法の工夫 ○特別支援教育充実 ○運動の日常化 | | |

| 教育委員会重点課題 | <取組項目> ・評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 年度末に向けた改善策 | |
|-------------------|---|--|---|------|----|--|----|---|--|
| | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | | コメント |
| 学力の向上 | <学力的向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | ・水チャレ/毎週水曜日10分間 →学年で統一した内容を実施 ・学力向上:月1回 →3年生以上の学級に職員を1名加配し、個に応じた指導を行う。 ・学期による放課後補習教室 →各学年週1回、年間合計150回 | ・東京ベークシッドドリル診断シート →前学期+3Pアップ ・タブレット端末を用いた学習(ミラシード) →「江戸川っ子Study week!」期間に実施率80パーセント | A | B | ○水チャレ/学力向上の確実な実施 ○「江戸川っ子Study week!」期間にタブレット端末を用いたミラシードの実施80パーセント以上を達成 ○放課後補習教室の年間150回の実施、補習教室講師と学級担任の情報交換の時間確保 ●基礎学力の定着(学年間で大きく差が見られる) ●進んで考えを発表する児童の育成 | A | ・どの学年、教科においても先生方が工夫した授業を行っている。 ・タブレット端末を有効に使用した授業が行われている。 ・どの学年でも放課後補習教室を進んで利用している。今後の成果に期待したい。 ・「江戸川っ子Study week!」の学習効果を期待している。 | ・東京ベークシッドドリル診断シートの分析を行い、児童の実態を把握する。分析結果を共有する時間を確保し、授業改善や校内研究に生かしていく。 ・水チャレや学力向上の時間を活用し、学年や学級の実態に応じた学習に取り組ませる。 ・教科担任制を今後も計画的に行い、児童の指導にあたる。 |
| 学力の向上 | <読書の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 | ・全学年年間授業一読書活動として各学年年間35時間 読み聞かせ→ボランティア見回り ・探究的学習→全学年学期1単元 〔読書活動年間12時間の内、4時間以上探究学習を実施、それらを「江戸川っ子読書料コンクール」に応募 →巡回司書→年間4回4冊 | ・年間読書量 →1・2年 100冊、3・4年 8000ページ、5・6年 10000ページ ・巡回司書と連携した授業 →学期に1単元 | B | B | ○読書科の取組みについてOJを実施 ○年間読書量を達成した児童60パーセント以上 ○読書に慣れ親しむための図書ボランティアによる読み聞かせの実施 ○探究的な学習を学期ごとに1単元実施 ●巡回司書と連携した授業展開の工夫 | B | ・読書月間を設定するなど、本に触れる機会を作っている。 ・図書ボランティアの方の協力もあり、いつも整備されている図書室になっている。読み聞かせもあつてとても良い。 ・巡回司書との連携を今後も期待している。 | ・巡回司書と連携し、探究的な学習を計画・実施していくことができるよう、打ち合わせの時間を確保する。 ・年間を通じた読書活動、探究的な学習ができるよう、次年度の学習計画を見直す。 ・学校図書を書き活用できるような読書科の活動内容を精査していく。 |
| 学力の向上 | <外国語教育の推進> ・授業力の向上とALTの効果的な活用 | ・校内研究の成果活用と実践 ・ALTとの打ち合わせ方法の改善 ・年間授業 →3・4年35時間、5・6年70時間 | ・年間授業 →3・4年35時間、5・6年70時間 | A | A | ○年間授業時数、中学生35時間・高学年70時間の確実な実施 ○ALTと連携した授業展開の工夫 ●ALTとの打ち合わせの十分な確保 | A | ・いつも楽しそうに外国語活動をしている。 ・ALTの先生が積極的に児童に関わっている。 ・OJ等を活用して外国語学習の授業展開について学ぶ機会を設ける。 | ・ALTとさらに連携した学習活動ができるよう、放課後に打ち合わせを行う時間を設定する。 ・OJ等を活用して外国語学習の授業展開について学ぶ機会を設ける。 |
| 体力の向上 | <運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・全校で縄跳びやマラソンに取り組む期間を設定し、運動に親しむ環境の作成 | ・パワーアップチアーズデイ →実施場所と取組内容内容を学年でローテーション ・授業改善/学期1回 ・全校で行う冬季の活動(縄跳び、マラソン) →それぞれ2週間ずつ実施 | ・パワーアップチアーズデイ →毎週火曜日(週1回)、合計で年間35回 →実施場所と取組内容内容を学年でローテーション ・授業改善/学期1回 ・縄跳び、マラソン →それぞれ2週間ずつ実施 | A | A | ○年間35回の運動遊び(パワーアップチアーズデー)の実施 ○体力向上のためのマラソン/なわとび週間を2週間ずつ実施(マラソンは2学期、なわとびは3学期に実施) ●運動遊び(パワーアップチアーズデー)の内容の工夫 | A | ・子供たちが楽しそうに遊びを行っているとても良い。今後も継続して行えるように。 ・マラソンやなわとびに取り組む習慣が設けられており、子供の体力向上に努めようと考えられている。 ・様々な遊びを行おうと工夫していることが分かる。 | ・体力調査の結果をもとに、児童の実態を把握し、傾向と課題を明確にする。 ・運動遊びを継続して実施し、体力の向上に努める。 ・運動遊びの活動内容を広げ、いろいろな運動に慣れ親しむ環境を整える。 ・体育の時間と運動遊びを連携させる。 |
| 共生社会の実現に向けた教育の推進 | <特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 | ・特別支援教室専門員による各学級の支援 →適宜 ・特別支援校内委員会 →月1回(巡回指導教員、スクールカウンセラーと共に) ・副籍交流の実施 →年3回(学期に1回) | ・特別支援校内委員会による各学級の支援 →適宜 ○特別支援校内委員会の月1回の実施 ○副籍交流の学期1回の実施 ○特別支援専門員を中心に、巡回指導員やSC、心理士等との連携した指導支援の充実 ●校内委員会の有効な活用 | B | B | ○特別支援校内委員会の月1回の実施 ○副籍交流の学期1回の実施 ○特別支援専門員を中心に、巡回指導員やSC、心理士等との連携した指導支援の充実 ●校内委員会の有効な活用 | B | ・ひまわり学級の児童がいつも頑張っている。さまざまな校外学習があり、他校との交流もできてよい。 ・通常学級との交流も進んで行っている。これらから校内で交流を深められるとよい。 ・SCや専門員が連携して子供たちの様子を見ていることが分かる。 | ・特別支援校内委員会の実施を今後も継続していく。個別配慮が必要な児童への支援についてすぐに情報共有できる環境を整えていく。 ・心理士、SC、巡回指導員と連携した特別支援全体の実施や進捗を計画する。また、次年度に向けて年間計画の見直し、作成を行う。 ・副籍交流について活動の見直し、教員への周知を行う。 |
| 子どもたちの健全育成 | <子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 | ・はじめ、不登校の早期発見 ・生活指導全体会、研修会の実施 →学期に1回、年間3回実施 →特別支援における研修会の実施(年3回) | ・児童に向けたアンケート、面接の実施 →学期に1回、年間3回実施 →hyper-QUの実施と、結果の活用 ・生活指導全体会、研修会の実施 →学期に1回、年間3回実施 →特別支援における研修会の実施(年3回) | A | A | ○児童に向けたアンケート、学期毎に1回ずつ年間3回の確実な実施 ○アンケートによる児童の様子や問題について共通理解、情報交換を行う場(生活指導夕会) ○生活指導夕会を活用した学年の様子や問題についての定期的な情報交換 ●hyper-QUの有効な活用 | A | ・さまざまな環境の児童が増えてきているように思う。対応はとても大変だとと思うが、たくさん先生方の目で見守ってほしい。 ・アンケートは今後も継続していくと思う。 ・児童にとって安心して過ごせる環境を今後も継続して整えてほしい。 | ・いじめ未然防止と早期対応の校内体制を継続していく。また、いじめや事故等緊急な対応について、どの教員も同じ行動ができるよう、フローチャートを作成する。 ・hyper-QUを分析し、児童の指導や授業改善に生かす。また分析結果は、教員間で共有する時間を設けて、学級の状況や児童の実態について共通理解を図る。 |
| 地域に広く開かれた学校(園)の実現 | <自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 | ・学校からの情報発信 ・各学年からの情報発信 ・学校公開の実施 | ・全校児童の様子の発信 →校長を中心に週3・4日程度 ・各学年の様子の発信 →行事を中心に、学習の様子等を月に1回程度更新 ・学校公開 →年4回、学習指導を中心に公開 | A | B | ○学校公開の年間4回の実施 ○校長を中心に児童の様子を週に2・3回発信 ●学年によるホームページ更新の偏り ●行事を中心に、学習の様子等を月に1回更新 | A | ・学校公開では、子供たちが楽しそうに学習している様子を見ることができた。今後も、継続して行ってほしい。 ・学校ホームページは、頻繁に更新されており、児童の様子がよく分かる。様々な情報が今後も増えることが予想される。情報を整理できるとよい。 | ・校長による学校ホームページの更新は今後も継続し、地域や保護者の方に情報を発信する。 ・学年主任や各分掌の長を中心に学年では週に1回程度、行事はその都度情報を発信する。 ・情報担当を中心に内容を整理し、見やすいホームページの作成に努める。 |
| 特色ある教育の展開 | <学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 | ・学校行事等への参観 →運動会・道徳地区公開講座・学習発表会など学期に1度 ・アンケートでの評価の実施 →行事や学校公開後にアンケートを実施 ・土曜公開→年4回(平日を含む) | ・学校評議員の行事への参観、学校公開の参観 ○行事・学校公開を含む、学期に1回以上の保護者の参観 ○昨年度のアンケートを生かした行事の実施 ●今年度のアンケートを生かした次年度の行事の精選、計画 | A | A | ○学校評議員の行事への参観、学校公開の参観 ○行事・学校公開を含む、学期に1回以上の保護者の参観 ○昨年度のアンケートを生かした行事の実施 ●今年度のアンケートを生かした次年度の行事の精選、計画 | A | ・保護者や地域の方が参加できるように学校行事を計画していることが分かる。 ・児童の様子や成長に合わせて、行事の内容を考えている。今後も継続してほしい。 | ・学校公開や各行事で地域や保護者の方に向けたアンケートを今後も実施する。アンケートから本校の成果と課題を明確にし、課題に対して改善を図れるよう学校行事の計画を見直す。 |
| 特色ある教育の展開 | 環境教育の推進 ・荒川環境学習やSDG'S学習を通じた課題発見・解決・発信力を育てる環境教育の推進 | ・年間計画に基づく荒川環境学習、外部講師の活用 →4年生での実施 | ・環境学習の実施 →4年生各学期に1度以上 | B | B | ○外部講師と連携した荒川学習の計画的な実施(学期に1度以上) ●SDG'Sと関連させた学習指導 | A | ・外部講師を招いて学ぶことができる機会を設けることとても良い。SDG'Sについて今後も意識をもてるように。 | ・総合学習と関連させ、SDG'Sを意識した学習の年間計画を作成する。 |
| 特色ある教育の展開 | 音楽活動の充実 ・達成感を味わえる課外金管バンドクラブの活動の実施 | ・感染対策下での活動支援 ・保護者への協力依頼 →鑑賞 | ・感染対策下での活動 →週3回、開演をもって実施 ・保護者への協力依頼 →鑑賞 | A | A | ○全校児童に向けた発表(年3回) ○週に3回、体育館を使用した活動 ○校外行事への参加 | A | ・金管バンドの活躍をいつも楽しみにしている。これからもいろいろな場で発表してほしい。 | ・伝統を継続しつつ、今後も内容を工夫しながら活動を行う。活動を発表できる場を設定できるように計画を立てる。 |